

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000488		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「夕焼け小焼け」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥408番地1		
自己評価作成日	令和2年7月20日	評価結果市町村受理日	令和2年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171000488-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町の中心に近いという環境の中で、地域との交流を深めながら、その地域の一員としての意識を持ち、日々の生活の中で生きがいを感じ心穏やかに生活できるような空間づくりに取り組んでいる。医療法人社団福寿会として、グループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所生活介護など各施設と連携をとりながら、入居者様やご家族様の希望に沿った総合的な支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者同士が互いを思いやり、声掛けをしながら自然と笑顔になる様子は、「共同生活介護」という名をそのまま実践している事が感じられる。地域密着型の事業所として、米や野菜等の購入は地産地消を心がけ、地域交流を積極的に行いながら、利用者が住み慣れた地域で今まで通りに暮らせるよう支援に取り組んでいる。郡上市初のユースエール認定(若者雇用促進法に基づく認定)企業にもなっており、若い職員が多く、地元のケーブルテレビにも取り上げられ、高齢者介護の魅力を地域に伝えている。法人内には介護福祉士の他に、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、柔道整復師等があり、多職種で連携しながら支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「見守ります 見逃しません 笑顔を引き出します」三つの理念を掲示し、職員として何が出来るか考えながら理念の実践をしている。	理念は目に付きやすい場所に掲示し、職員の給料明細の袋にも印字するなど、意識付けを図っている。職員の年齢幅は広いが、一人ひとりが理念に沿った支援を自分なりに工夫し、共有しながら実践につなげている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや盆踊り、避難訓練、保育園の鼓笛隊、ボランティアさんの訪問等、地域との交流をしている。	苑内は広く、地域の人も自由に散歩することができる。利用者は敷地内で住民と交流したり、地域の祭りに参加して地域の人と一緒に楽しんでいたが、今年は新型コロナ感染予防対策により、様々な地域行事やボランティアの訪問も中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内、近所の方は施設のことを知ってくださっており、利用者家族への連絡・報告等で理解していただけるように活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においての意見を尊重し、サービスの向上に活かしている。他の部署の情報交流の共有もできると良い。	運営推進会議は敷地内のカフェで行い、民生委員、自治会長、利用者家族も出席している。和やかな雰囲気の中、地域の防災に関することなど、様々な意見交換をしている。現在は、市と相談し開催を見合わせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の来苑時に利用者の訴えを聞き、施設の対応・返答等の意見交換を行い、市町村との連携をしている。	市からは新型コロナウイルス感染症対策等の情報が適宜配信され、不明点や疑問点を相談しながらサービスの提供に取り組んでいる。今年度は、コロナ禍での運営推進会議開催や外部評価等についても、指示を仰ぐなど、常に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという意識は常にあり、やむを得ず拘束の必要があっても早期に解除できるよう毎月のケア会議で検討している。	職員は、自身のケアを振り返るための虐待チェックリストの確認を行い、その集計結果を分析し、不適切ケアに繋がらないように努めている。事故のリスクが高く身体拘束が止むを得ない場合が生じた時には、決められた手順に沿って、家族から同意を得た上で、短期間での解除を目指し支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について資料で勉強会を行い、日頃から職員間で話し合い確認をして防止に努めている。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度については理解が不十分であり、研修等の勉強会の機会を持つと良い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明等は、ケアマネージャーから十分な説明と同意がされている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会時の家族との会話の中で意見を聞き、反映している。	面会時や家族会の際に、家族から意見を聞く機会を設けている。家族から、利用者の日々の食事メニューを知りたいという要望があり、「食事便り」を作成し、利用者の様子を書いたメッセージと併せて、家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議で職員の意見を聞き、反映するように努めている。常に意見を言える職場の環境づくりに努めている。	管理者と職員は、普段から意見や要望を率直に言える関係性にあり、ケア会議でも様々な改善提案が出され、それらを運営に反映させている。職員一人ひとりの家庭環境に合わせた働き方や勤務体制など、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の条件、スキル向上につながる配慮はされているが、現場の状況をもっと理解してほしいという意見もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加、資格取得の支援がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の取り組みは無いと思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期利用者には、特にこまめなコミュニケーションをし、本人の要望をお聞きして、安心して生活していただけるように信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも密に連絡をとり、家族の心配事・希望を聞きながら良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との会話の中にケアのヒントを見つけ、意向を把握し、適切な支援・初期対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の一方的な介護ではなく、グループホームの家族の一員として意識を持ち、馴染みの関係を築き、共に支え合うことを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の苑便りや家族への連絡、面会時に近況をお伝えし、共に本人を支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会や、馴染みの場所への外出など、これまでの関係が途切れないよう支援している。	同法人事業所の利用者や近所の美容院、犬の散歩をする人など、馴染みの関係ができています。現在のコロナ禍の状況では、地域住民との交流は難しくなっていますが、家族の協力も得ながら、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人が隣の席になるよう配慮したり、無理のない程度にレクに参加し、良好な関係を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方でも、できるだけこれまでの関係を断つことなく、話を聞く等の支援がされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活、会話の中で本人の思いや願いを聞いて記録し、できるだけ希望に添えるよう努めている。	日々の関わりの中で、利用者の思いや意向を聞き、「意向シート」に記録している。利用者の食べたい物、やりたいこと、ささやかな希望であっても、それを引き出し、職員が知恵を出し合いながら、実現できるよう取り組んでいる。	職員は、日々の支援の中で利用者の思いを把握するよう心がけている。現在は、新型コロナの影響を受け、制限せざるを得ないことも多いが、今まで以上に、利用者へ寄り添い、思いや望みを受け止める支援の継続に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からこれまでの生活歴・環境を確認し、把握すると共に、日常会話の中で昔のことを話したりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握し、一日の様子記録に残し、変化があればすぐに対応できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で課題について話し合い、ケアマネジャーがケアプランを見直し作成している。	家族の面会時や電話の際に、介護計画について意見を聞き、計画作りに取り入れている。申し送りノートで情報を共有し、ケア会議で課題点を話し合いながら、介護計画を作成し、毎月のモニタリングでは達成状況の確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・変化を記録し、職員間で情報共有し、支援や介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせて、柔軟なサービスの支援ができるよう取り組んでいる。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の美容院へ行ったり、他棟の友人・知人に会ったり等の楽しみを持ち、笑顔を引き出す支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人医院の医師による利用者の状態、医療的処置、必要に応じてかかりつけ医への受診を行っている。	入居前のかかりつけ医が選択できることを説明し、本人・家族の希望に添って対応している。月2回、協力医の往診があり、緊急時には、24時間体制で法人の医師による対応も可能である。市共通の「医療・介護連携シート」を使い、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護職と連携し、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携シートで情報提供をし、安心して治療ができるように病院との関係づくりが行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族から終末期の希望を確認する。看取り期には再確認をとり、本人・家族の納得のいく終末期を過ごせるよう支援している。	契約時に、本人・家族に重度化および終末期の方針を説明し、理解を得ている。状態の変化があった時には、医師・看護師と連携しながら、利用者と家族が最期まで、安心して過ごせるよう適切な支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時は医師・看護師に報告し、指示を受けているが、実際に起きた時の対応に不安があるという職員もいるため、訓練・研修が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練や、災害時の訓練を定期的に行っている。地域の自治会の方も参加して協力をしていただいている。	年2回、災害訓練を実施している。備蓄用の食料は、利用者が食べやすい形態の物を用意し、利用者全員の防災頭巾を新しく購入している。事業所は災害時において、地域の福祉避難所として対応ができるよう、自治会主催の防災会議に出席し、緊急時の体制作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、それぞれに合わせた言葉かけや対応をしている。	利用者との会話は、普段から使っている方言を交えながらも、目上である利用者を尊重した言葉遣い、接し方に努めている。部屋に入る時は、ノックをして声をかけ、利用者のプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や仕草等で本人の思いを察し、気持ちを表現できるような場づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、本人の意向を聞きながら、日々の生活を思い思いに過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類、髭剃り、散髪など身だしなみに心がけ、その人の好みや希望に沿って支援している。また、地域の美容院へ出かける支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるような声掛けや音楽をかけるなど雰囲気づくりをしている。また、簡単な調理補助やテーブル拭き、お盆の片付け等を手伝っていただいている。	調理専門の職員を配置し、三食共、手作りで提供している。毎月1日の朝食は小豆ご飯、日曜日の朝はパン食など、月の変わり目や曜日が、利用者にわかるように工夫し、状態に合った形態で提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランス・体重の増減等を管理しており、個々に合わせた食事の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、歯科衛生士による口腔ケアの指導・衛生管理を行っている。口腔体操により、口腔機能低下の予防を実施している。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な声掛けをし、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、他の利用者やタイミングに配慮しながら、声掛けと誘導を行っている。排泄用品は、利用者の状態に合うものを使用するよう調整している。夜間は、利用者の安眠を妨げない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取・運動等で便秘予防に努めている。排泄コントロールも看護師と相談しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的に決まっているが、その日の体調に合わせて臨機応変に対応している。	入浴は週2回を基本とし、拒否のある人は曜日を变えるなど柔軟に対応している。一般浴とリフト浴があり、身体的な状況に合わせて使い分け、安全な入浴支援に努めている。地元の温泉の湯を取り入れ、利用者が楽しめる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに添った就寝・休息の支援を行っている。居室の明るさ、温度管理にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される薬の効果・副作用を把握し、飲み忘れ、服薬時の飲み込みの確認、誤薬の無いよう必ず確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの残存能力を生かし、洗濯物・読書等のできることを大切にしている。レクリエーションも工夫し、楽しんでいただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・外気浴や要望があれば家族と連絡をとり、外出できるような体制をとっている。現在はコロナの影響により外出は中止している。	通常は、外出行事として、花見や遠足に行き、手作り弁当やレストランでの外食を支援していた。現在は、新型コロナの感染予防対策として、遠出の外出は自粛中であるが、近所の神社へ散歩に出かけたり、中庭や事業所の前での日向ぼっこなど、外気に触れる機会を設け気分転換を図っている。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想・紛失等のトラブル防止のため、お金は事務所金庫にて管理されている。必要時には使用できるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族と電話したり手紙を書いたりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアに大きな窓があり、四季を感じられるようになっている。玄関には季節の花が生けられ、壁の飾りも季節ごとに工夫している。	今年度は、新型コロナ感染予防対策として、事業所内に立ち入る事が難しく、敷地内のカフェにてPCを利用し、共用の場所、居室等の写真や動画、多くの資料で確認する事となった。リビングには、ゆったりとしたソファが用意され、利用者がテレビを観たり、毎月の作品作りをするなどして過ごしている。利用者や職員の共同作品も飾られている。職員による演奏や、踊りの披露も出来る広い共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士お話されたり、ソファでくつろいだり、居室で過ごされたり、思い思いに自由な時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物・写真・趣味の物等を置き、居心地の良い空間となるよう支援している。	居室には備え付けの棚があり、思い出の写真や自作の作品などを飾っている。テレビや家具も持ち込みが可能であり、家族と相談しながら、利用者が居心地良く過ごせるような居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等の表示は分かりやすいものにしたたり、洗剤・消毒・歯ブラシ等の置き場所に配慮したり、通行の妨げになるものは置かないよう安全な環境づくりを心掛けている。		